

認知症を考える 早期の相談と社会の支え ～脳神経内科医からのメッセージ～

「最近、物忘れが多くて心配…」「家族の様子比以前と違う気がする」。もしそう感じることがあれば、認知症のサインかもしれません。認知症は身近な病気であり、正しい理解と適切な対応が大切です。今回は脳神経内科医の立場から、その理解と社会の支えの重要性をお伝えします。

認知症の原因は、アルツハイマー型をはじめ、レビー小体型、脳血管性など多岐にわたります。正確な診断が極めて重要です。もしご自身やご家族の症状が認知症かもしれないと感じたら、まずはかかりつけの先生に相談しましょう。先生は普段の様子を把握し、必要に応じて専門医療機関への紹介や助言をしてください。

います。私たち脳神経内科では詳細な診察や専門的な検査を行い、正確な診断の検討を行います。早期の診断は、適切な医療介入や将来に向けた準備を可能にします。

近年、アルツハイマー型認知症の治療には新しい進歩が見られます。新しい治療薬は病気の原因物質に働きかけ、進行を一定期間遅らせる効果が期待されます。しかし、これらの薬は認知症を「治す」わけではなく、完治の効果は確認されていません。これらの新しい治療薬は「ごく早期のアルツハイマー型認知症」や「軽度認知障害」の一部の方に適用され、副作用のリスクもあります。専門医による厳密な診断、効

果とリスクの理解、綿密な経過観察が不可欠です。

認知症は医療だけで完結しません。日常生活の支援、介護サービスの利用、本人とご家族の心のケアが不可欠です。地域包括支援センターや自治体の相談窓口など、地域の社会資源を活用しましょう。公的な支援や専門家のアドバイスは介護負担軽減に繋がります。

認知症と向き合うことは、本人、ご家族、社会全体で支え合うことです。正しい知識を持ち、かかりつけの先生に相談し、医療と介護が連携することで前向きに取り組めます。一人で抱え込まず、頼れる専門家や支援があることを知ってください。



市立函館病院

脳神経内科

堀内 一宏 科長

略歴

平成18年、旭川医科大学医学部卒業後、茅ヶ崎徳洲総合病院、北海道大学病院、帯広厚生病院、釧路労災病院などで勤務。平成29年より市立函館病院で勤務し、平成30年4月、科長に就任した。日本神経学会神経内科専門医、日本内科学会総合内科専門医。